

研修No. 25

2022年度 病院医学教育研究助成成果報告書

報告書提出年月日	2023年 3月 24日
研究・研修課題名	生殖医療に従事する胚培養士育成、胚培養士資格更新の為の研修
研究・研修組織名(所属)	培養室(産婦人科)
研究・研修責任者名(所属)	京哲(産婦人科)
研究・研修実施者名(所属)	山内 至朗 三田奈々子 児玉夕希(産婦人科)

成果区分	<input type="checkbox"/> 学会発表 <input type="checkbox"/> 論文掲載 <input type="checkbox"/> 資格取得 <input type="checkbox"/> 認定更新 <input type="checkbox"/> 試験合格 <input checked="" type="checkbox"/> 単位取得 <input type="checkbox"/> その他の成果()
該当者名(所属)	山内至朗、三田奈々子(産婦人科)
学会名(会期・場所)、認定名等	生殖医学会(パシフィコ横浜)、生殖補助医療胚培養士
演題名・認証交付元等	日本卵子学会
取得日・認定期間等	取得より5年ごとの更新
診療報酬加算の有・無	<input type="checkbox"/> 加算有() <input checked="" type="checkbox"/> 加算無

目的及び方法、成果の内容**①目的**

生殖補助医療胚培養士には高い専門性を有し、最新の知識を生かした技術及び高い倫理観を持つことが要求される。本院の培養業務従事者に日本卵子学会、日本受精着床学会、各種セミナー等に参加する機会を与え、生殖補助医療胚培養士資格、あるいは臨床エンブリオロジスト資格取得者が増えることで、より安全性の高い生殖医療を提供することを目的とする。

②方法

生殖補助医療胚培養士資格更新には5年間で5回以上の関連学会への参加、5年間で2回以上の資格認定元である日本卵子学会への参加が必須。また、卵子学会が主催する倫理講習会への参加が必須。

③成果

生殖補助医療胚培養士資格更新に必要な学会へ参加し、単位を修得、最新の知識、情報を得る事が出来た。

2022年4月より生殖補助医療の保険適応が開始され、患者の金銭的負担は軽減されたが、採卵、胚移植の保険適応には回数制限があり、制限内での結果を求められる。今学会でもいかにより良い胚を育て、選別するかについての発表が多くみられた。

より安全性の高い生殖医療はもちろんのこと、さらに高い胚培養技術、より妊娠率の高い胚を選別することが求められるようになることから、今後も積極的に学会に参加することで当院の不妊治療による妊娠率の向上に繋げたい。今回は学会参加のみであったが、自らの演題を発表できるように研究も積極的に行っていきたい。

研修No. 25

2022年度 病院医学教育研究助成成果報告書

報告書提出年月日	2023年 3月 24日
研究・研修課題名	生殖医療に従事する胚培養士育成、胚培養士資格更新の為の研修
研究・研修組織名(所属)	培養室(産婦人科)
研究・研修責任者名(所属)	京哲(産婦人科)
研究・研修実施者名(所属)	三田奈々子(産婦人科)

成果区分	<input type="checkbox"/> 学会発表 <input type="checkbox"/> 論文掲載 <input type="checkbox"/> 資格取得 <input type="checkbox"/> 認定更新 <input type="checkbox"/> 試験合格 <input checked="" type="checkbox"/> 単位取得 <input type="checkbox"/> その他の成果()
該当者名(所属)	三田奈々子(産婦人科)
学会名(会期・場所)、認定名等	日本卵子学会(Web)、生殖補助医療胚培養士
演題名・認証交付元等	日本卵子学会
取得日・認定期間等	取得より5年ごとの更新
診療報酬加算の有・無	<input type="checkbox"/> 加算有() <input checked="" type="checkbox"/> 加算無

目的及び方法、成果の内容**①目的**

生殖補助医療胚培養士には高い専門性を有し、最新の知識を生かした技術及び高い倫理観を持つことが要求される。本院の培養業務従事者に日本卵子学会、日本受精着床学会、各種セミナー等に参加する機会を与え、生殖補助医療胚培養士資格、あるいは臨床エンブリオロジスト資格取得者が増えることで、より安全性の高い生殖医療を提供することを目的とする。

②方法

生殖補助医療胚培養士資格更新には5年間で5回以上の関連学会への参加、5年間で2回以上の資格認定元である日本卵子学会への参加が必須。また、卵子学会が主催する倫理講習会への参加が必須。

③成果

生殖補助医療胚培養士資格の更新に必須な日本卵子学会にWeb参加し、当学会が主催する倫理講習を受講することが出来た。

胚培養士は日々の業務から高い倫理観が要求されるっており、今回のような倫理講習会で他施設の事例や、様々な角度からの考え方に触れることで、患者により安全性の高い治療を提供することに繋がっていきたい。